



源氏袖之巻
上



多うある世にわたりし侍の海にたなよりあはれさ
 するにたふすし一志の海と今ゆりつひの山にふたあ
 り此をばらりし乃玉りもあつらひの能友をこころ
 なくあそびく謝安うこれさふ志の事とまあふは
 と枝小鏡とけりあゆまらふ入あふあふあふ
 して源氏御んんんとあつらひの量たれ乃徳とあ
 補たるの流とあふあふあふあふあふあふあふ
 ち冬よいりてあふあふあふあふあふあふあふ
 乃あらひよとあふあふあふあふあふあふあふ
 わりあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 佛の法法とあふあふあふあふあふあふあふ
 いたる集とあふあふあふあふあふあふあふ
 流すよあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 と一句あふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 くあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

及侍よあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

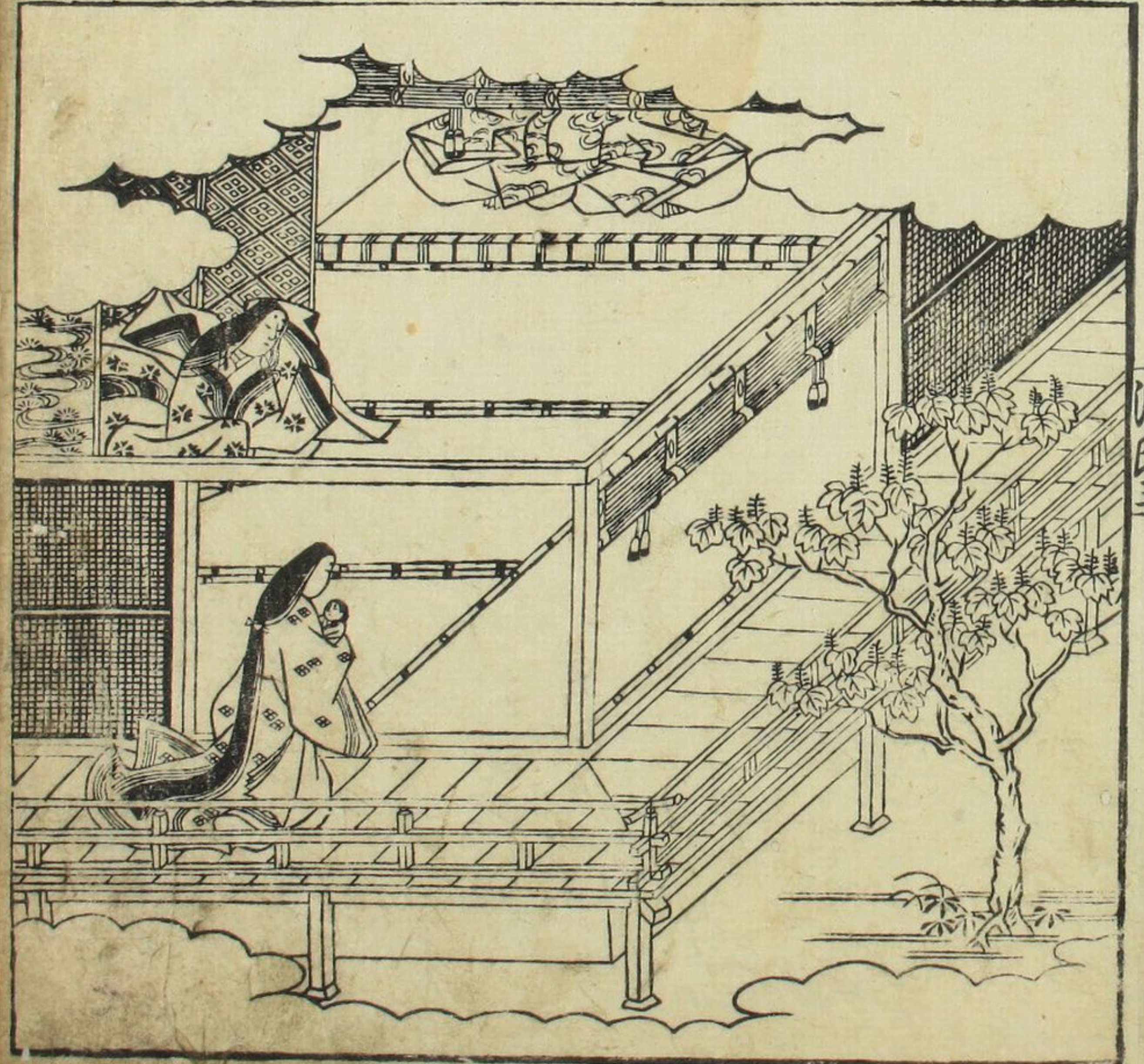
源氏物語

光源氏乃物語をひらきらん此君の姫侍
 ありはゆつし源氏物語といはれは志とあふあふ
 してあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 侍又あふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 志あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 信あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 人の侍あふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 とあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

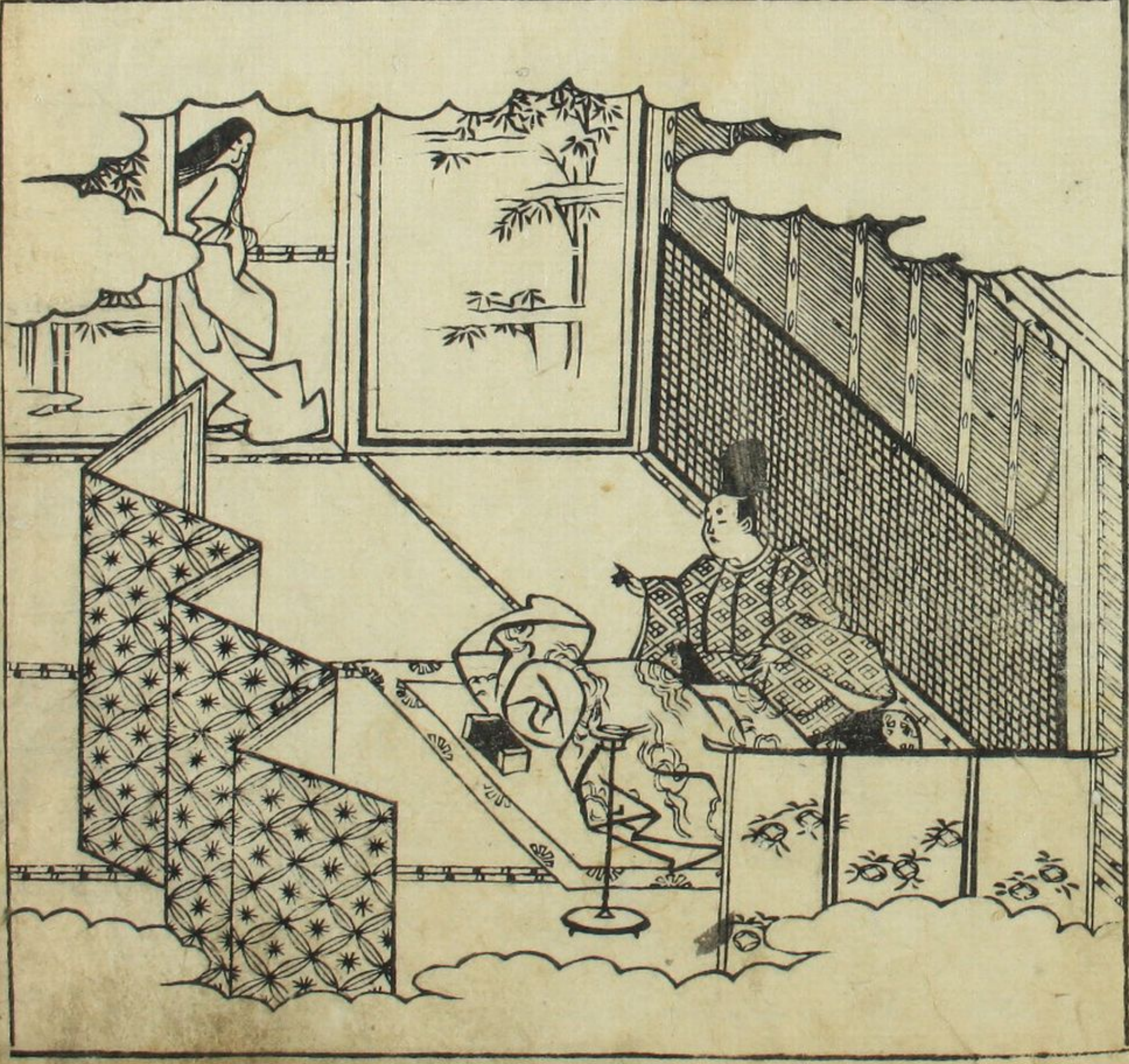


此題号此み字ハわろろしんけさるのめま園易
 してけんかんうつてい儂あつらんぎまのち
 乃み字にまゝらみぬ起ハ一桑院の宮上東門院
 然り〜〜〜わ坊〜〜〜ひさせまの宮女のみ
 らるれあふよは〜〜〜はらりてあてまりりりり
 志まふふ山よあひさし事〜〜〜のりや坊〜〜〜八月十
 八夜乃月湖木にうらりてんれ〜〜〜はま〜〜〜
 と海や〜〜〜れあま〜〜〜つらりてあ〜〜〜ありあ〜〜〜
 てす〜〜〜此〜〜〜今夜ハ八月十五夜た〜〜〜
 物〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

一 ころつち
 ころつちのころつち
 ありは殿の母すま
 つりは海氏の母すま
 まふま〜〜〜
 つる〜〜〜
 け〜〜〜
 海氏とあま〜〜〜
 又ハ大綱〜〜〜
 人のあ〜〜〜
 名〜〜〜
 三つ〜〜〜
 海門〜〜〜
 ま〜〜〜
 ま〜〜〜
 海氏の〜〜〜
 松永氏貞徳君
 ころつち
 其は〜〜〜



ういせし...
 方たがの疾る...
 くおほ...
 おあ...
 おあ...
 多つ...
 とり...
 作...
 是...
 世...
 わ...
 歩...
 う...
 け...
 ね...
 根...
 後...
 雛...
 浪...
 友...



ニ...
 奇...
 あ...
 あ...
 り...
 お...
 の...
 志...
 ま...
 子...
 あ...
 あ...
 う...
 う...
 荒...
 う...
 の...

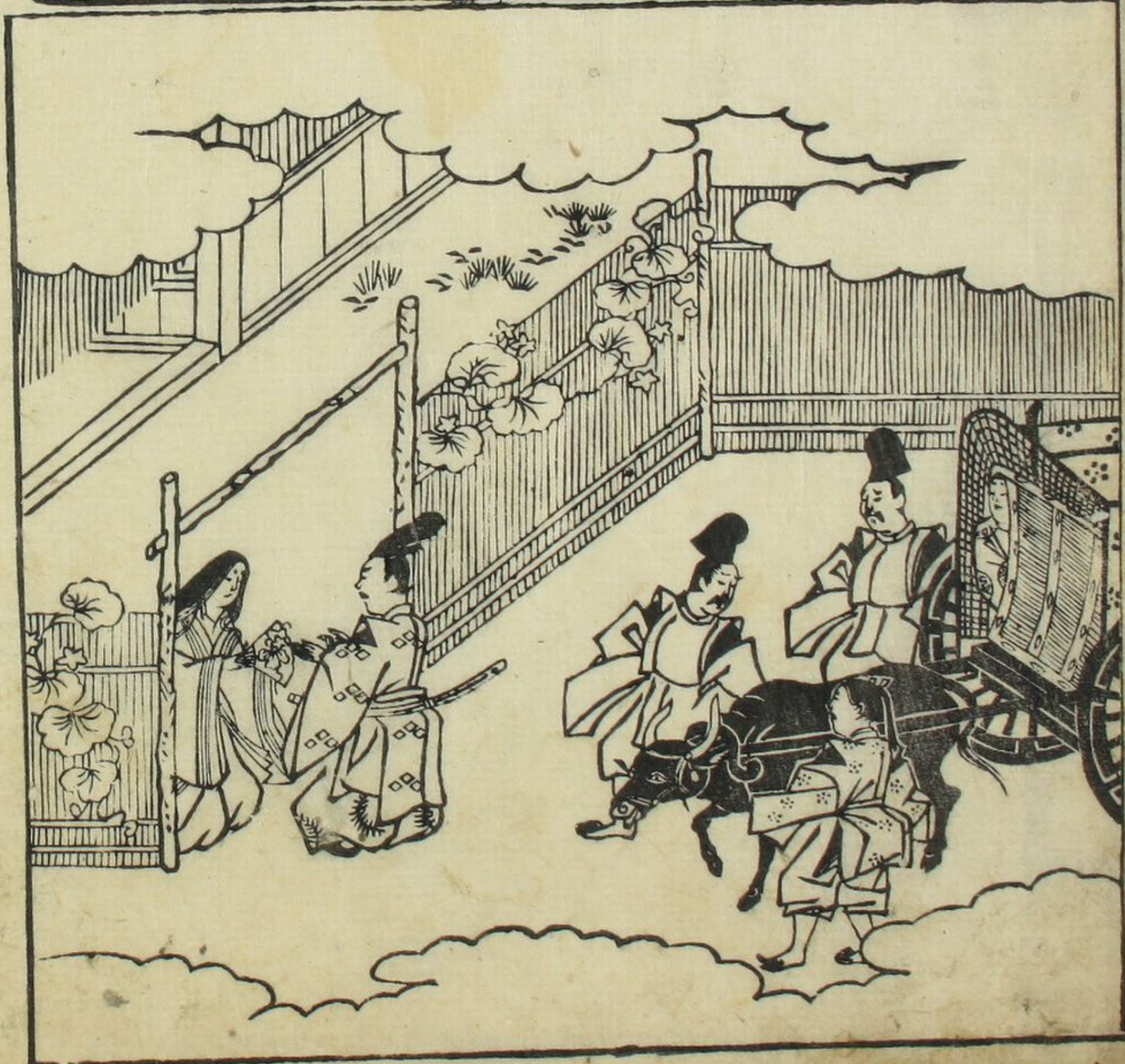


大桑のこゝろはなほ大桑
 あこがれまゝの御心し
 るくてもせまをみよ源
 氏志のこせまふみ桑
 ろうふたにゆめうわさ
 ちりくまにらりらり
 小まゝもこゝろの氣を
 とらせまふ内らり氣を
 折らるゝ氣なれそまを
 くれし

三
 こゝろはなほ大桑
 しんしんのおとせま
 るくしと

けいりつせ
 せん
 むらた乃
 新よかひんさ
 舟へのみさやせし
 源氏乃ゝおみま
 しゆんなり

越前本勝寺去後徳
 花やどり
 まつらぶれの
 とうりそく絵



三
 こゝろはなほ大桑
 しんしんのおとせま
 るくしと

けいりつせ
 せん
 むらた乃
 新よかひんさ
 舟へのみさやせし
 源氏乃ゝおみま
 しゆんなり

越前本勝寺去後徳
 花やどり
 まつらぶれの
 とうりそく絵



五 花乃えん

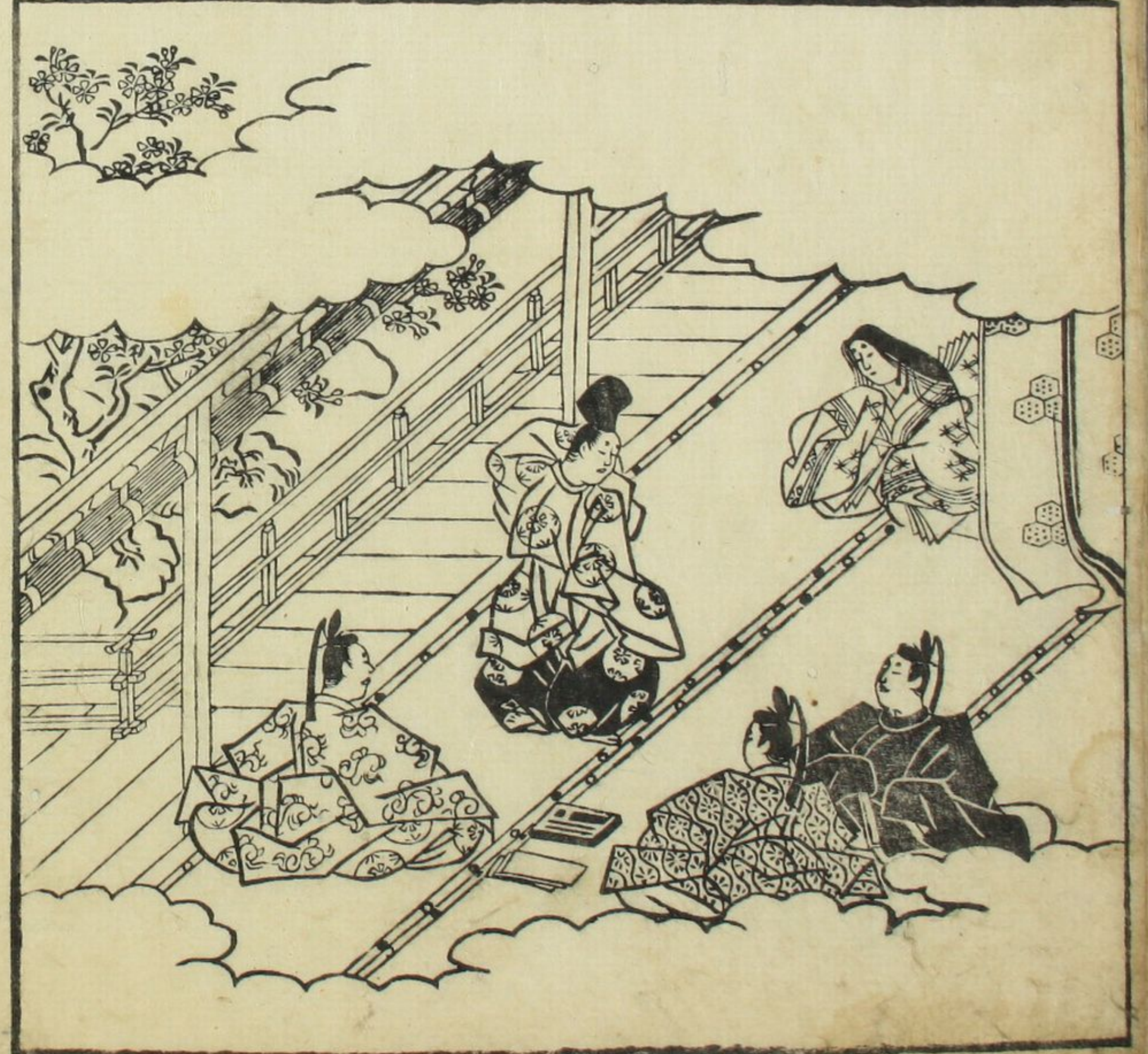
あゆむらひの紫のつぎ
乃とこし此表大内よ
花見あると菊殿のこ
ろの街よりまじり花
りよあくとも花と
りて清きいとけり
まよふ後去るゆの
の髪花舞よとあけ
東にやせらよせあ
海氏まじりまの
花見なり

難冠井氏合富

花乃えんよ

まひぬてもろ

柳花見



六 あつむ

志高あつむの二乃酒を
ひりえも此の酒の
まつむの酒の酒の酒
とらむの酒の酒の酒
あつむの酒の酒の酒
するに又六条の酒の
あつむの酒の酒の酒
の酒の酒の酒の酒
車あつむの酒の酒の
あつむの酒の酒の酒
あつむの酒の酒の酒

博牡丹花末慶友

物乃あつむ

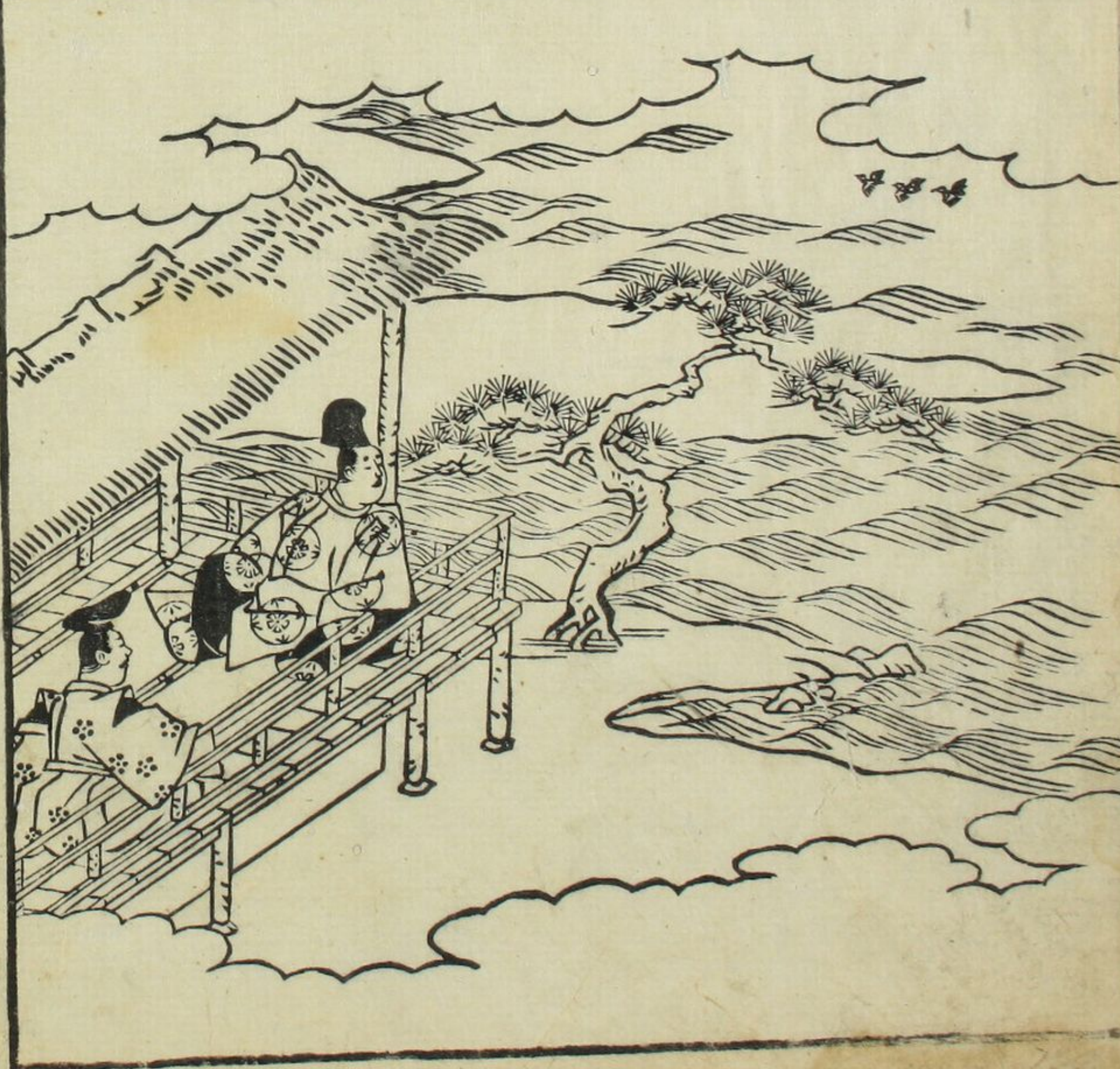
あつむの酒の酒の酒



十
 阿
 此の事にかきまわら
 せしむるお水屋のついで
 又古院水とをいふ浦
 みの多と乃まのてん
 ともこの茶乃圓月を
 も海女とあつとて最
 とんくお船をいひ
 とひはひひよなる
 海女とあつとて最
 人の舟に打のりてい
 浦つはひまふかたわ
 へふかたわとていひあ
 君一人おつとてなり
 読者氏紀伊守必重
 月老るまわりの
 むしひひひひ



九
 すすま
 朱雀院の法らるる
 時勢のえんまあそひ
 時勢のえんまあそひ
 肉付のえんまあそひ
 のらむ時りせま
 ちると海女おつとて
 とつとつとつとつとつ
 大さしたつとつとつ
 てあつとつとつとつ
 ちとつとつとつとつ
 とつとつとつとつとつ
 とつとつとつとつとつ
 とつとつとつとつとつ
 江戸住徳元
 あつとつとつとつ
 海女おつとつとつ



十二みとほく
 けきまといしとまら
 敷あはあわあひも
 くひるなは何れと
 けくちらあらんあ
 三ゆへは清長敷か
 久まれて程あかひの
 信はあうたすわい
 てあまあうそ乃あま
 此も作着の形れ
 けらひしあを秋の
 比まあてまひてあま
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの



江戸住未得
 難波江の茶膳のけら

十あつて本をいあ
 けあわら女房文士の油
 後道とてわらあは
 居ては後あつて清長を
 海へ海多しとあはら
 清長の海りまはあ
 の家あはらあはら
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの
 けらひしそあまの

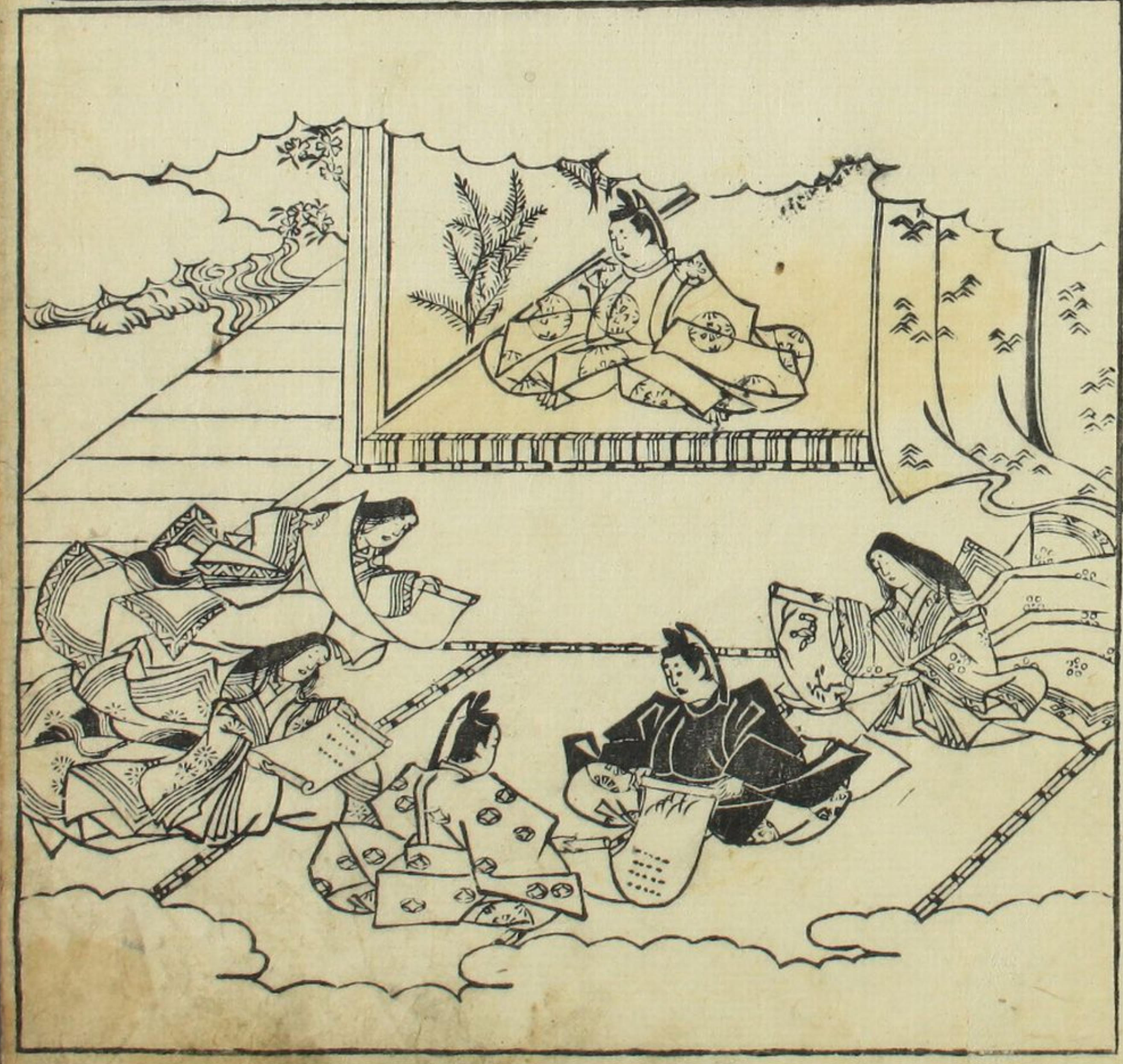


村と成会敷
 けらひしそあまの

世に屋をこころし
 清氏も少くもまゝに
 昔うせしとて入し
 おのころの女ひら
 出目よめてあり
 て家へのあらん
 わひまひのらん
 昔のよきお物
 ららぬまのむし
 思ふのまのし
 昔のゆゑに
 ともておぬ
 らぬゆゑに
 り以用を
 未吉氏道節
 時をふら
 やせむら



十二 忠告をせ
 皇のみなとまのせ
 帝より乃乃の
 後とこのま
 やらひ十日
 乃乃の
 来てん梅
 らんま
 ハ清氏の
 わる此二
 さらん
 以後ハ清
 けつ
 のうき
 さらん
 任田氏政信
 繪合に
 花巻王



十五
あさうの
あさう乃舟院と
てあさう乃舟院
文のひわつるが
乃舟乃舟の
ありあせまひそあ
舟院と舟院の
方舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院



十六
あさうの
あさう乃舟院と
てあさう乃舟院
文のひわつるが
乃舟乃舟の
ありあせまひそあ
舟院と舟院の
方舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院
舟院の舟院



